

2023 8/5~8/10

熱夏の思い出

志賀高原合宿 作文 小学部

T・Hくん

「成長した合宿」

僕がこの合宿に来て成長したと思うことは三つあります。

一つ目は、語句テストが最初は九十六点や九十八点だったが、語句テストの勉強をする時に、目標カードに書いた満点をとるために何回も練習することや言葉と意味をセットにして覚えるようにしたら、満点を何回も取れたことです。また、長文テストの記述がこれまで書けなかったが最後のテストで記述を書いたら四点得点ももらえたことです。

二つ目は、算数のテストが二回だけ点数が悪かったが、残りの六回ずっと良い点数を取り、シールをもらえたことです。最初はケアレスミスは何問もしていたが、ついにケアレスミスをなくして満点を取れたことです。

三つ目は、理科のテストで苦手な部分を得意にし、時間配分も考えて取り組み、八十点から八十八点までの点数をキープすることができたことです。合宿前まではバツの問題が二十くらいあり、また悪い時にはバツの問題が百を超えることもあったのに、合宿ではバツの問題が二十以内だったのでよかったです。社会のテストでは、時間配分を間違ったり、漢字を間違えたりしましたが、最終的にはそれらをなくすことができて良かったです。

生活面では風紀チェックでバツがたくさんついてしまったが、最後のチェックでは二重丸がついて良かったと思いました。

合宿を通して、勉強面、生活面と成長することが

できて良かったです。また志賀高原で合宿をしたいです。

K・Mくん

「楽しかった合宿」

ぼくは、この五日間楽しかったけれど、悲しかったことや泣いてしまったことなど色々なことがありました。そして、その中で一番楽しかったことがあります。それはハイキングです。なぜならもちろん山の頂上はきれいだったけれど、ぼくが個人的に楽しかったのはリフトです。なぜかというリフトで雲の中に入った時、目の前がいきなり見えなくなりとても幻想的でゲームみたいだなとつぶやいてしまっていました。二番目に楽しかったことは、食事の時間です。なぜなら、みんなと話しながら食べるご飯はとても美味しく、さらにバイキング形式だったので好きなものを選べたのが楽しかったです。次に楽しかったのは、花火です。なぜなら色々な先生が花火に火をつけてくれて、中には手持ち花火を投げてみんなを楽しませてくれる先生もいました。次にキャンプファイヤーです。少ない時間ではあったけどみんなで歌を歌い最高のひとときをすごせたと思っています。次は朝の散策です。なぜならどこの山まで行って、後半の目標を思いっきり青く澄んでいる空に向かってさげびます。これが、頭がすっきりしてとても良い気持ちになりました。最後にお風呂の時間です。これは楽しかったのではなく、気持ちがよくまりました。そして、ぼくがお風呂で驚いたことは、なんと露天風呂と室内の風呂とでは色が違う

ことです。するとMくんが温度によって変わるらしいよと教えてくれました。このように合宿は楽しいことがたくさんありました。

H・Tくん

「がんばった合宿」

ぼくは、初めての合宿でした。

一日目は、びくびく、不安、緊張をずっとしていました。授業が始まった時は、かたまってしまったくらいずっと心でやばいと思っていました。しかし、最後になってみると「ああ、合宿やって良かったな」と思う人がいっぱいいると思います。ぼくもそうでした。最初は漢字・語句、例えばことわざなどが全然覚えられなかったのですが、合宿に行ったらいっぱい覚えられました。

二日目は、一日目と比べて長い授業が始まりました。二日目は八時間十五分になります。一気に辛くなってきたし、宿題も出たのでパニックになりました。しかし、自習室ですごく集中ができたので少しほっとしました。

三日目は、ハイキングに行きました。ハイキングは雨だったけど、空気がとてもきれいでした。昼の時はアイスとジュースが買って気分が変わりました。だから、またがんばっていいこうと思いました。夜には花火もやって本当にきれいだっし、ホテルも見えてきれいでした。

四日目は、朝の散策で空にむかって自分の目標を言いました。そこからがんばろうとしたら語句はほとんど良くなりましたが、ぼくが苦手な長文テスト

は全然点数が取れませんでした。だから、本当に悔しかったです。

五日目、勉強はこの日で終わりました。夜にあった表彰式では、ジャンケンをしたり、歌を歌ったり、キャンプファイヤーをしたりしたので、寒かった合宿がすぐに温まりました。初めてのキャンプファイヤーだったので驚きました。

そして、朝食、昼食、夕食はおいしかったです。ハイキングなので好きに食べました。

ぼくは、初めての合宿でなにも変わらないでよと思っていましたが、合宿をしたら計算のミス、ケアレスミスがなくなっただけで、それを生かして受験に取り組んできたいです。合宿はとても大事なことでだと思います。

W・Kくん

「とても楽しかった合宿」

ぼくは、合宿に行ってみたことがたくさんあります。

一つ目は、初めはビリになったらどうしようなどたくさん不安がありました。実際に行ってみると、志賀高原は涼しいし、きれいだから、集中しやすいというのがあります。また、ホテル自体もきれいで、自分と同じような人たちが授業を受けると、分かりやすく、分らないところは先生に気軽に聞けるので環境的にはとても良い場所だと思いました。

ぼくは、理科がとても苦手な、実際あまり良い点数はとれていませんが、先生がアドバイスなどをしてくれたりして、授業最後の日に、良いとは言えませ

んが、前回のテストのプラス十点をとれました。それに、自習部屋があり、そこでも先生に分からないところを質問できたりするので、たくさん努力をすれば、自分の実力はもつとのびるのだなと思いました。また、合宿では毎日テストがあり成績順に座席に座ることになっていますが、最初はぼくはいやだなと思いました。授業を受けてみると、授業が楽しいので、席なんてどうでもいように思えました。そして、合宿の最終日に思ったのが、一週間前の自分より今の自分の方が明らかに良い方に変化したということです。なぜなら、先生方が本気で授業もしてくるし、自習タイムも設けてくださったので、自分のために絶対に役に立つと思ったし、東京に帰ってから合宿で成長しているのか確かめてみたいとも思ったからです。とにかく、ぼくがこの合宿で特に思ったことは、合宿地のホテルも清潔だし、涼しくて、自然の空気もおいしいし、先生が一人一人に寄りそってくれるので、絶対にずっと自分の得になると思うし、同じくらいの実力のライバルと張り合うことで、高め合うことができます。だから、ぼくは合宿は自分にとってチャンスだと思いました。最後に、言いたいことが一つあります。合宿に行かないと損だと思えます。

H・Dくん

「将来をかけた合宿」

ぼくは合宿にきて、自分の将来を想像しながら勉強をして、今までの自分の悪いところを良い方向に向けて一歩一歩踏みしめながら進んでいくものだ

授業最終日に考えた。そして合宿に来て努力をすることによって実を結ぶのは、一秒、一時間、一週間後かもしれないけれど、必ず実を結ぶから今ゆくりでもいいから進んでいくものなんだと、今までの授業などを振り返って改めて思った。

そしてぼくは、医者になるという将来の目標が決まっている。「中学受験」という努力をして、一歩一歩医者という将来の目標に近づいていき、医者になろうと考える。いろんなことをやってきた人に聞くと、中学受験のころが一番勉強したそうだ。ぼくも、つらいことがあっても歯が立たなくても、ここでふんばりたい。そして、戦国時代でいうと敵の城を落とすこと、受験でいうと「合格」、失敗すれば「不合格」という争いの世界で生き残っていきたい。そのためには、島津がやった敵陣突破、織田信長の桶狭間の戦いのように勝てないと思われたって努力し抜き、ぼくも合格という勝利をかかげたい。

また、この合宿では、「勉強に対する態度を良くする」という目標を掲げて頑張った。ぼくは実際に勉強への態度を変えることができたと思う。ぼくは、たとえ歯が立たなくても、ねばって一点突破を目指し全ての点数の差をしばって、偏差値を上げることがこの合宿の努力に誓う。

T・Mくん

「先輩(年齢だけ)から、合宿に行く君へ。」

一、合宿ガイダンスの日

説明会で合宿の事を聞いた私は大変そうだと感じた。でも、同時に楽しそうだとも思った。その日の

夜、母と父に合宿のことを伝えた。母は、楽しそうといった自分に「遠足じゃないからね。」と言った。その日寝るときには期待(合宿の楽しさ、成績が上がることに)に対して「と不安で胸がいつぱいだった。」

二、八月四日(合宿前日)

合宿で使うタオルとスーツケースが届いたのはその日だった。父が仕事から帰ってくると、荷物を急いでつめた。十九時くらいにはつめ終わった。ちなみに前日に塾へ持って行けるのだが、前に書いたとおり荷物準備が終わっていなかったため持っていかなかった。合宿に行く後輩の皆さん、「前日に持っていないかと当日大変だから絶対持っていた方がいいよ！」明日は朝が早いので、スマホのアラームとアレクサのアラームを五時十五分に設定した。その日は異様に寝られなかった。

三、八月五日(合宿初日)

五時十五分ぴったりに起きた。朝ご飯に納豆ご飯を食べた。塾に着くと、名札としおりをもらって3番教室へ向かった。そこでは、もうみんなが席についていた。Sくんから同じ班であることと他のメンバーを教えてもらった。

バスに乗る。そうしようと塾の入り口を出たときに、足をくじいてしまった。その痛みはこれを書いている二日前まで続いた。そしてバスに乗った。高速道路に入るまでSくんと話をし、ゲームをした。(ゲームは往路・復路のみ使用可) お昼ご飯、宿舎まで十分程度の場所で食べた。そこから十五分もしないうちに宿舎へ到着。部屋に入った。

到着すると部屋の確認をし、終わると開校式が始

まった。そこでI先生は「受験は団体戦だ」と言った。そのときの自分には、互いに協力して勉強するという意味にしかとれなかったが、後々その意味を理解していくことになった。

四、八月六、七、八日(合宿二、三、四日目)

八月六日は勉強、とにかく勉強だった。八月七日にはハイキングや花火があり、息抜きができた。その夜、歯みがきをしているときに鼻に違和感があった。そう、鼻血だ。この後も二回鼻血を出した。

次の日の早朝また鼻に違和感。シートがよこされた。その日の風呂の時間、風呂場で鼻血が出た。チューターの方に助けられたとき、受験は団体戦の自分なりの意味が分かった。そう、先生も生徒もチューターも母も父も関わりながらの受験なのだ。そして八月九日の二十二時四十分これを書き終る。

S・Iくん

「馬鹿な男子のタメにならない随筆文」

— 夏のある日のこと —

母の言った「夏には合宿があるね。」という一言にぼくは夜もどんな感じなのか予想をした。二月の勝者そのようになるのか、それとも……

こうしてぼくの合宿への期待は高まっていった。

— 合宿ガイダンス —

持ってくるもの、どこに行くのかなどが伝えられた。ゲームがいいのは衝撃だった。またバスの移動時間はとても長い。先生は平然としゃべっていたが、

ぼくはほぼ内容が頭に入ってこなかった。

——合宿までの授業——

先生に何は良いのか、何はだめなのかをひたすら聞いた。でも肝心な生活班だけは伝えられなかった。正直に言うと「ふざけるな！」と心の中でずつとつぶやいていた。合宿はとも楽しみだが少し健康に關して不安だった……

——合宿初日——

朝は早く起きた。身支度をして休憩をしていると母に「あれは大丈夫、これは……」ぼくは、「気持ち分かるけれど休みたいよー」と心のうちで叫んでいた。それでも自分だつて心配だった。

時間はとんで塾にきた。メンバーを確認する。メンバーは全員親しいやつだったのでほっとする。隣の班をちらつと見た。「ちよつと……やばくね」心の中でいう。だが、そいつは、「バナナ！」と叫んで気にしていない。バスに乗った。小さい荷物の中を見る。「うん、あれ？す、す、水筒がない！」はい終わった、合宿早々やらかした。校舎に置いてきた。先生に言うとお水を買ってくれた。命の水！でもお小遣いから引く羽目になった(泣)。ゲームをして過ごしたが、少し不安になってくる。ホテルに着いた。「あら広い」そう言うと隣のやつも「でかくね」と少し引いていた。授業が始まる。もともと好きなものもあるが快感だった。お風呂に入る。「ああ、気持ちいい」ここからぼくはお風呂に入るのが楽しみで仕方がなくなる。食事だ。バイキングなので好きなものを食べられる上に、思っていたよりも断然おいしい。そして自習をして目標カードを書いて寝た。

——合宿二〜四日目——

勉強をして、自習をして、散策の時に叫んで、ハイキングに行つてと、とても充実した日々を送つていった。でもやはり説諭の声にだけは慣れることができない……。

——合宿五日目——

午前は勉強して午後からは自習、表彰式、キャンプファイヤーをした。そして今作文を書いている。

——ここでの感想(まとめ)——

ぼくは、合宿に来て、一点一点の重みを一番わかつたと思う。なぜかつて、シールがあるからさ。シールをとつてライバルにただただ勝ちたかつた。ちなみにぼくは連絡委員だが、みんなでがんばつたので全然大丈夫だった。

F・Sさん

「天下分け目の夏合宿」

私は最初、夏合宿に対して、不安と楽しみを感じていた。「大丈夫かな」「勉強についていけなかつたらどうしよう」などと思つていた。でも、合宿に来てみて、たくさんの体験をして、「合宿から帰りたくない」と思った。特にうれしかったことは、算数で八割以上の点数を取れたことだ。なぜなら、私は四科の中で一番算数が苦手で、そして少し嫌いな気持ちもあつたからだ。だから、算数のテストが毎日あると聞き、一瞬だが「終わった……」と感じていた。そして迎えた初日、なんと百五十点中百点以上を取れた。初めは、「え？え？冗談でしょ？」となつたが、現実だと気づき、言葉では言い表せないほどに驚き、

喜んだ。その後によつたテストも、だいたい三けたにいつていて、前にも挙げたように八割以上を取っていたり、クラスで三位になったりもした。私の目標であつた「苦手なところを得意か普通にする」というのも、「算数の自信をつけ、少し嫌いから普通にした」という点で、達成したと胸を張つて言えると思う。他の教科では、最後に国語は百二十九点を取つて、一位の金シールや、努力賞をもらったので、国語は「有終の美を飾つた」と言えるだろう。理科と社会があまり取れなかつた(社会は百点で一位ゲツト)ので、そこは今後の課題となつていくであろう。

また、勉強以外での一番の思い出は、星空観察をしたことと、表彰式だ。表彰式ではジャンケン大会で商品を取れたし、星空観察するときには、生の北斗七星に感動したし、変な軌道で飛んでいる(ベガの周辺を一周して去つていた)飛行物体を見つけて、「UFO!？」と言ひ合つたことも、楽しい思い出の一つだ。題名である『天下分け目の夏合宿』。楽しい思い出を辛い時には思い出して、「天下(受験)を制す」という意味でつけた題名だ。これからもつらいことはたたくさんあるだろう。だけど、夏合宿でつけたこの「自信」を糧にして、進んでいきたい。

T・Aさん

「戦ひ合った夏合宿」

私はどれかの教科で三位以内に入るといふ目標を立てました。でもそれをかなえる前に一番上のクラスだから「これかなえる前にビリになつてしまふ

かも」などと考えていました。しかし、一回目の国語の長文テストを行った時、KさんやFさん、Tさんが良くて、「ああ、悔しいな、なぜ点数の差ができるのだろう」と考えた結果、私は私なりに集中し、文章をより深く読みとろうと決心しました。次の日になり、二回目の長文テストを受けてみたら、三位でした。私は悔しい思いをさせてくれた、Kさん、Fさん、Tさんに感謝しています。私は成長したなと思ったことが二つあります。一つ目は、合宿行く前まではネガティブ思考で「三位になれるわけがない」と思っていました。実際に合宿に来てやってみたら、「この人に勝つためにはどうすればいいのだろう」などと考えたり、ぶつかりあったりしたおかげで、「やればできるんだ」というポジティブ思考になることができました。二つ目は、開講式のときに五十嵐先生が「受験は団体戦である」といい、私はその意味がよく分かりませんでした。けれど、その意味が数日間職員と過ごして分かりました。どうやって分かったかという点、班員のこの人だけには、追い越されたくないとか、この人を追い抜きたいという目標ができたからです。私は八月九日の夜に表彰式があり、算数で努力賞をもらえてとてもうれしかったです。この合宿を通して最終的に思ったことは、クラスの人と切磋琢磨をして互いに点数を上げることが大事だということです。この合宿に行かせてくれた父親、母親、合宿の手続きをしてくれた先生方、本当にありがとうございました。

S・Sさん

「自分が変わった合宿」

私は合宿に行つて予想以上にすごく楽しかったです。合宿に行く前は勉強しかないイメージがあつてやっていたけれど不安でしたが、実際に行くくと勉強に疲れてきたところに、ハイキングや花火などのイベントがあつて、全く疲れがたまりませんでした。また、授業についていけない自信が全くありませんでしたが、先生が丁寧に分かりやすく説明をしてくれたので、よく集中して授業についていくことができました。前半では、よく集中して授業を受け宿題忘れや風紀の乱れなどなく過ごすことができましたが、後半になると気がゆるんで大きな荷物の上にバッグを置いたままにしてしまい、風紀チェック表に×がついてしまつたり、宿題を終わらせることができず説諭になつたりしました。しかし、反省してその日から風紀をこまめにチェックし、どのくらいの時間で宿題が終わるか考えて計画を立てたりして気を引きしめて生活したので、風紀の乱れや宿題忘れなどなく過ごすことができました。最後に、成績が発表されて二組の国語で最優秀賞をとることができたので、最後まで気を引きしめてがんばつてよかったと思いましたが。この合宿で、成績がとても良い人が予想以上にたくさんいることを知つたので、がんばつて勉強して成績を上げて、成績が良い人と同じくらいの成績になつて、どんどん成績を上げていって自分の限界を越えたいと思います。そして、成績が全然届いていない第一志望校に受かりたいという気持ちがあり強く、努力していきます。

S・Sさん

「本物の悔しさと本当の目的を見つけた合宿」

私は、一生この合宿の日々を忘れないだろう。なぜなら、この五日間で、自分が今まで感じたことのない強い「悔しい」という気持ちになつたからだ。合宿に来る前までなら、私はテストの結果があまりよくなくても、「しょうがない」とか「まあ、いいか」と思つて点数を少しでも上げようと努力する時間を短くしていた。自分より点数が上の人がいても、その人を尊敬するだけで、自分もがんばろう、努力しようと思うは思わなかった。

でも、合宿二日目の国語の授業で受けた語句テストや長文テストで、簡単な漢字や知識問題が正解だつたら、いつもの塾ではY2クラスの私でも一組の中でシールをもらえたとき分かつたとき、私は、「悔しい」と思った。その気持ちを目標カードに書いたことが良かったのだろう。自分が本当は点数を上げて表彰されたいと思つていることが分かつた。一組の人は頭が良いから、シールがとれなくても、「しかない」じゃないんだと思った。

国語でそう思つてがんばつて自習しはじめたのをきっかけに、算数と理科も努力するようになった。すると、午後に不安だつた理科で九十八点、自信がなかつた社会で八十八点、三日目に苦手な算数で八十点と八割以上の点がとれて、とてもうれしかった。努力すればこんなに良いことがあるのだ、と知つた。いろいろなことが終わつて、ついに五日目の夕方。表彰式の時間になった。一組の国語の優秀な人の名

前が呼ばれる。あれ、私がない。算数の二組の発表の時。あれ、私がない。優秀な班の発表。あれ、うちの班じゃない。何にも呼ばれなかった。もう私の周りに座っている人はみんな呼ばれている。がんばったのに、足りなかった。みんな景品を見ている。私だけ、ない。空っぽのナップザックだけ。つらい。悲しい。でも、もっと強い思いがあった。「悔しい。」という気持ち。国語の時より強い。そうか、これが本物の悔しいなんだ。そう思った。

泣いた。だけど、本当に努力して報われないと、泣けるということが分かって、少しうれしかった。

斉藤先生が閉校式に言っていた、「目的は入試」という言葉と、みんなで歌った歌の歌詞の「君の願いはちやんとかなうよ」という言葉でやっと泣きやむことができた。そうだ。合宿は入試に合格するために来たのだった。本当の目的がはつきり思い出せた。合宿では足りなかったけれど、あと六か月間、悔しかった気持ちを忘れずに、第一志望合格を願ってしっかり勉強すれば、努力が報われるかもしれない。悔しさと目的が分かった今、がんばることを続けられる気がする。合宿を有意義なものにできて良かった。

M・Yさん

「決意ができた合宿」

私は、この合宿で嬉しかったことや決心したことがあります。まず、嬉しかったことは、合宿の班のメンバーで風紀の賞を取れたことです。合宿には班があり、最終日に表彰式が行われます。その中の賞

の一つに班で協力する風紀の賞があります。私たちの班は「風紀の賞しか取れるものがないと思うから全力で頑張ろう。」と初日から意気込んでいました。そうしたら、最終日の表彰式に私たちの部屋番号が呼ばれました。他のチームも良い評価がたくさんついていたので焦りを感じていました。だから、その焦った分だけでも嬉しかったですし、友達からのほめ言葉も身にしました。

次に、合宿を通して決意したことです。合宿の間は、基本的にテストからの解説や自習が多いので、他の人の勉強の仕方などがよく分かります。そして、見ていて気付いたのは、休憩中に暗記物などを覚えていく人が多かったのです。クラスの子としゃべるのではなく休憩時間も有効に使っている子が多かった。この約半年の限りある勉強時間を有効に使いたいと思いました。だから、合宿で実施した生活リズムを参考にして今後の勉強を進めていくと決意しました。これからの時間は、中学受験を合格するための時間だということ意識して頑張りたいです。その思いを感じさせてくれたのは合宿だと思っています。そして、他の受験生の人たちの熱意も感じさせてくれたのも合宿特訓だったと思います。

S・Mさん

「忙しかった一週間」

私はこの合宿に来て、本当に良かったなと思っています。その理由は三つあります。一つ目は、ずっと苦手だった理社が好きになった

からです。私はY Tテストや組分けテストなどで、理社の点数が半分いくか、いかないくらいでした。でも、この一週間、テストをやっていくうちに点数が九十点以上を取るのが当たり前になり、理科では満点を取れて、とても嬉しい気持ちになりました。

二つ目は、新しい課題点を見つけたからです。三日目と四日目は算数の点数がすごく悪くて、その原因は、計算ミスやケアレスミスなど、取れるところを取れていなかったもので、そこが課題点だと気づくことができました。なんとか直していきたいです。そして三つ目が仲間と協力して一週間で「こせたからです。初日に五十嵐先生が、「受験は団体戦です。」と言っていて、最初はあまり理解がでなかったのですが、きびしい風紀チェックやとても多い宿題などをみんなで乗り越えていくうちに意味が分かってきました。

この合宿では、辛いことや苦しみもあったけれど、それよりも点数を取れたことの嬉しさや、達成感の方が強い気持ちです。私はこの一週間、たくさんのことを学びました。どれも大事な思い出です。これからも大きな壁があるかもしれないけれど、そのときにはこの夏期合宿特訓のことを思い出して、ゆっくり、一步一步、歩んでいきたいです。そして必ず二月の勝者になり、桜の舞う春を迎えたいです。

O・Yさん

「楽しかった合宿」

私は、合宿当日まで行きたくないなと思っていました。けれど、合宿が始まり毎日のように授業を受

けたりしていると、だんだん楽しくなってきました。そして、今はもっとみんなと勉強したかったと思うようになりました。

私が成長できたと思うことは三つあります。

一つ目は、漢字・語句です。漢字・語句のプリントを配られ、やってみようと思い、目を通すと、半分くらいしか分かりませんでした。しかし、何度も何度も繰り返し練習すると、満点や数問ミスするところが多くなりました。本番でも何問かミスするかないかでした。今は、プリントを配られた時の自分が信じられないです。

二つ目は、算数のテストです。点数でいえば下がっています。意識的には上昇です。なぜなら、初めの方のテストで、簡単な問題を間違ってしまったからです。その日から私は初めから最後まで一度解いた後、残りの時間を分からなかった問題だけでなく、見直しにも時間をかけるようにしました。見直しは、基本的なことかもしれませんが、見直しが苦手な私からすれば大きな第一歩だと思っています。

三つ目は、団結力です。最初に言われた言葉が忘れられません。そのおかげで風紀の優秀班として選ばれました。班のみんなと協力してきれいにしたらだと思いません。勉強では一位になれなかったのですが、せめて風紀だけでも選ばれたらいいなと部屋をきれいにして良かったと思います。

今回の合宿に参加したことによって、受験を受けるときの自信につながると思います。

T・Mさん

「合宿で学んだこと」

私は、この合宿で、点数に自信があった国語と理科・社会のテストで全然点数が取れなくて、自分の弱点がよく分かったと思います。

私はもともと漢字が苦手、得意な社会が全て漢字指定だと分かったときに、これは終わったと思って、紙に呪いをかけるように苦手な漢字や難しい漢字を書きました。しかし、自分の思わぬところでミスをしてしまい、内容はわかるのに漢字ミスで点下落とし、結果的に四点か二点差で三位になれなかったりするときに続き、一枚もシールをとれずごく悔しかったです。

しかし、意外だったのは、私の一番の苦手教科である算数で、二位に一回と三位に一回なれたことです。これで、算数は基本の計算や基本問題を落とさずしっかりすれば、それなりに点を取れることが分かったので、次からも気をつけて点を取っていきたいです。

私がこの合宿で一番うれしかったのは、風紀で最優秀班になれたことです。勉強面では私よりできる人がたくさんいるので、風紀で最優秀賞をとれるように班四人で一日目から机やスリッパなどを必ず確認するようにしていたので、見事に努力が報われてとてもうれしかったです。

私がこの合宿から学んだ大事なことは、漢字をしっかり何度も書いて覚えることと、算数の基本的な問題をしっかりと取ることです。

これからもこの合宿で学んだことを受験勉強に生

かしていきたいです。

M・Hさん

「勉強だらけの夏期合宿」

感想から言うと、楽しさが強い合宿生活でした。しかし怖いこともありました。これからその合宿生活について書こうと思います。

楽しかったことは、大きく分けて三つあります。

一つ目は、部屋のメンバーと協力をしたり、チームワークを高めたりすることができたということです。開校式で五十嵐先生が「受験は団体戦だ」とおっしゃいました。そして、「ワンフォーオール、オールフォーワン」という言葉も教えていただきました。

この意味は、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」です。この合宿ではじめに聞いた時、私は「受験は個人戦」と考えていたため意味がよく分かりませんでした。しかし、五泊六日が終わろうとしている今、ようやく分かりました。その意味は、「一人では乗り越えることのできない壁は、みんなで越えることができる。その壁は、今回は『中学受験』だ。みんなががんばって二月の勝者になろう。」かな、と私なりに思います。考えは一人一人違うと思います。

二つ目は星空観察です。私たちは台風が近くになり、雨も降っている中でやりました。しかし、天頂にあること座のベガなど夏の三角形も見え、おとめ座のスピカも見えました。そして、私が一番目と二番目に好きな星たちも見えました。一番目は流れ星です。きちんと線がひゅつと見えました。私が好

きな理由は願い事を三回唱えると願いが叶うという
すてきな迷信があるということ、きれいだからで
す。二番目に好きな星は北斗七星です。理由は単純
に七つの星があるからです。私は、五年の学校の移
動教室は、あいにく体調がすぐれず見えませんでし
た。しかし、この合宿では、見えました。とてもう
れしかったです。

最後は、テストについてです。私は、国算理社正
直に言うのと全て苦手です。しかし、その中でも算数
でうれしいことが起きました。それは百点満点で最
高が九十点で最低でも六十五点だったということ
です。一問五点です。そして二回も九十点を取ること
ができました。この合宿では、自習の時間というも
のが存在します。宿題をやったり、暗記をしたり。
色々なことができます。でも、つらいこともありま
した。それは「私語厳禁」ということです。私は通
常、話をしている人です。この時間や消灯後は苦痛
でした。

私が怖かったことは、火遊びです。やったことは
二つです。

一つ目は先生たちの手作りと思われる花火です。
花火で私ができるのは、線香花火だけです。理由は、
おばあちゃんが打ち上げ花火で、やけどをしたから
です。それで花火が怖くなりました。

二つ目は、キャンプファイヤーです。私が一番長
くいるというだけで点火する人になってしまいまし
た。私は火を見るとどうしても社会の教科書にのっ
ている被爆した後の焼け野原を思い出してしまい、
きらいです。だから、とてもいやでした。

これから色々大変なことがあると思います。それ
でも合宿を思い出しがんばっていきます。

M・Mさん

「合宿の思い出」

私が思う合宿の思い出は、四つあります。

一つ目は、勉強です。なぜなら、漢字・語句テス
トや理科、社会のテストで満点を取るために一生懸
命やったり、友達と一緒に暗記をしたりすることで
友情が深まったりするからです。また、同じクラス
の子と新しく友達になったりできたからです。

二つ目は、星空観察です。星空観察では、こと座
のベガやわし座のアルタイル、北斗七星、人工衛星
などさまざまな星が見られてよかったです。観察す
る場所に着いた時は、雲がかかっている見られるか
不安だったけれど、時間がたつにつれて、雲が晴れ
ていき、星をちゃんと見られたし、流れ星も見ること
ができたのでうれしかったです。

三つ目はキャンプファイヤーです。キャンプファ
イヤーでは、においや炎の動き方、火がパチパチと
鳴らす音など色々な感覚で楽しむことができました。
四つ目は、班のみんなとの時間です。例えば、朝
食の時間です。バイキングで、班のみんなと一緒に
選んだりすることで何気ない会話ができたり、みん
なでテーブルを囲む時に、「一緒にいただきます」
を言ったり、友達が何を取ってきたかなども見られ
て、次自分も食べてみようと思えるからです。他に
は、自習室での勉強が終わった後です。なぜなら、
班員と協力して布団をしき、一緒に歯をみがいた後

に、全員で勉強をすることで、「みんながんばってい
るし、自分もがんばろう」という気持ちになり、勉
強が早く終わるからです。

私はこの合宿で学んだことを生かして、合宿が終
わった後もしっかりと、気をゆるめず、一生懸命勉
強して、色々な知識を身につけて現在のクラスを維
持したいです。

K・Fさん

「自分の欠点」

私は、この合宿を通して、国語・算数・理科の自
分の大きな欠点に加え、生活面での大切なことに気
づきました。

国語では、「自分は知識が少ない」ということが分
かりました。長文テストの知識問題では、主に外来
語と漢字が点数を取れていないことに気づきました。
これからは、外来語は意味とつしよに覚えて、漢
字は、まちがえたら次に問題が出た時に答えられる
ように、何回も書いて定着させていきます。

算数では、「苦手意識がある状態のまま解いている」
ことと、「応用問題が全くわからない時がある」こと
が分かりました。ケアレスミスがもとと多いので、
いつも二回計算するのですが、計算速度もおそいの
で、一問一問に時間がかかってしまいます。また、
最後までいけたとしても、分からないで結局得点で
きない時もあります。このような状態が続いている
ので、算数への苦手意識があるまま解いてしまっ
ています。これからは、毎日計算問題を解いて、計算
速度を速くします。また、たくさん問題を解いて応

用問題に慣れていきます。

理科は、「解き方や答えが分からない時すぐに諦めてしまう」ことが分かりました。国語と同じように、覚えていないと知識問題が解けないことが多いです。また、計算問題では慣れていない問題になると分からなくなってしまうことがあります。だから、とにかく問題を解いて知識を広げていきたいです。

生活面では、「時間の大切さ」に気づきました。私は普段、塾で出た宿題を家でやる時に時間を気にせずによってしまい、二、三時間たってしまったことがよくあります。しかし、合宿ではそうはいかないので、いつも五時半に起きてやっています。解くのがおそいからです。このことから、いつもあたりまえに使っている時間が、実はとても大切な時間であることに気づきました。

最後に、私がこの合宿を通して一番心に残った言葉は、五十嵐先生の「受験は団体戦だ。」という言葉です。私は、最初意味が全く分かりませんでした。風紀などの活動を通して、少しずつ意味が分かってきました。この言葉を胸に刻んで、二月まで頑張っていきたいです。

W・Kさん

「色々なことを学んだ合宿」

私は、この合宿で勉強面や生活面で色々なことに気づきました。

国語の目標は、「漢字・語句テストで満点を取ること」でした。第一回はちゃんと練習できておらず、満点を取ることができませんでした。しかし第二回

では、三回以上練習し、満点を取り、シールをもらえました。長文テストの二回目では、三位のシールをもらうことができました。

算数の目標は、「公式を身につけ、次できるようにする。まちがえた問題は、しっかりと直しをし、今後その問題で点を落とさないようにする」でした。一、二回目では、ケアレスミスや問題をしっかりと読みこめていなかったことから、一位にはなれませんでした。解説を聞き、直しをするので三回目では一位を取り、シールをもらうことができました。

次に生活面です。生活面の目標は、「部屋をキレイに過ごす」でした。一回目はスリッパの乱れ、電気、カーテンの閉め忘れ、床の上にゴミが置いてあったりして、二重丸をもらうことができませんでした。しかし、班のみんなと風紀チェックを確認して、二重丸をもらうことができました。五分前行動も最初はおちよっとおくれてしまったけれど、次から気をつけて行動することができました。表彰式では、表彰されず悔しかったけれど、これからはがんばりたいと思いました。

この合宿を通して、色々なことを学びました。合宿に行かせてくれた両親、先生方、看護のみなさん、他の校舎のライバル、友達、チューターさん、ホテルのみなさん、本当にありがとうございました。





おやつ♪

ハイキング月



朝の散歩😊😊



★表彰式★

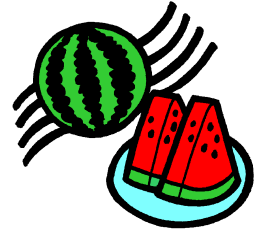


ごはん♪

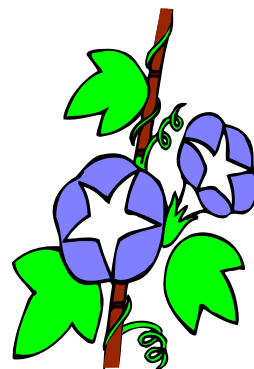




夏



笑



夢



あすなろの
高さこずえに
夢みたり
思いのかぎり
はばたく我を



日本教育学院

武蔵関校